

長期研究員 岩 橋 康 紀

- 84 -

効果的な相互評価の場となった。

③ 「論の構成の意識化」を図り、書く活動に結び付けるためのグループでの学習

グループで調べた環境問題についての資料を使って、ワークショップ形式で発表する側と聞く側に分かれ意見交流をした。発表資料の内容には、環境問題の「原因」、「問題点」、「対策」の三つの項目を必ず入れ、グループの中で分担して作らせた。なお、これらの項目は、この後の個人で書く意見文の内容と同じものになるようにし、論の構成のモデルとしても活用することをねらった。

(3) 論の構成の意識を高めるためのスモールステップで書く活動の設定

論の構成を意識して書く活動のイメージは、図2のようになる。

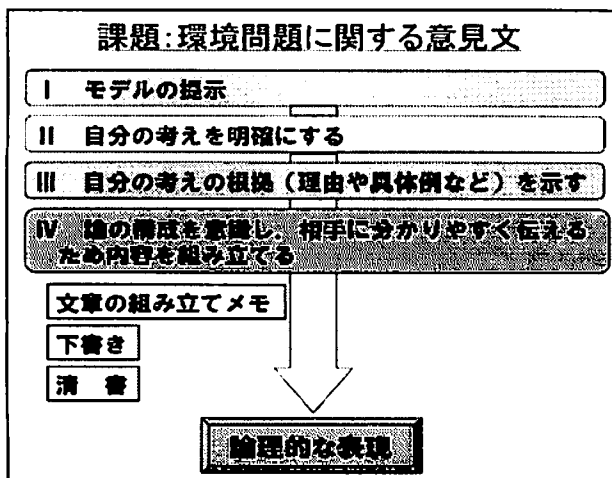


図2 論の構成を意識して書く活動のイメージ図

初めに、児童に意見文のモデルを提示し、作品の概観をつかませた。その上で、自分の考えを明確にする段階、自分の考えの根拠（理由や具体例）を示す段階、相手に分かりやすく伝えるため内容を組み立てる段階を位置付け、スモールステップで書く活動を設定した。特に、内容を組み立てる段階では、ワークシートの活用を図り、さらに細かなステップで内容や表現を吟味して意見文を書かせた。

このようなステップで書かせた意見文を分析すると、以下のような点で論理的な表現の条件を満たした文章になった。

- ① 原稿用紙1枚（400字程度）、四段落の条件を満たして書かれている。
- ② 一貫した主張がある。

③ 具体的な事例を取り上げ、自分の考えに根拠付けをしている。

④ 段落のつながりを考えて、つなぎ言葉を適切に使っている。

⑤ 自分の主張を「始め」と「終わり」に述べる双括型の文章で構成している。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- (1) 論の構成に意識を向けさせたことにより、意見文において自分の考えと根拠を効果的に組み立て、相手に明確に伝える論理的な表現が見られるようになってきた。
- (2) 論の構成の意識を高めるために重点化を図った単元構想によって、自分の考えが明確になるよう文章の組み立てを考えることができた。また、相手の論の構成の意図にも気付くことができた。
- (3) 内容や表現を吟味する視点を持たせた交流によって、友達の文章の内容、論の展開のよさに気付き、自分の表現に生かすことができた。また、作品を自己評価したり、児童同士で相互評価したりする力の高まりが見られた。
- (4) スモールステップで書く活動によって、論の構成を意識化させるとともに、相手に対し自分の考えや意見を明確に伝えることができるようになってきた。また、書くことが苦手な児童にとっては、書く内容と手順が明確になり、段落のつながりを考えた文章が書けるようになってきた。

2 課題

- (1) 交流によって学習を深めるためには、多くの資料から情報を取り出したり、精選したりする力が必要である。また、自分たちが書いた文章の内容や表現を児童自身や児童相互で吟味する力をより高める必要がある。
- (2) 論理的に表現する力は、本単元だけの学習で育つものではない。児童の実態に応じて、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」など他の領域と関連させた言語活動の中で継続的に指導する必要がある。

